

神奈川県立海洋科学高等学校
漁業ガイダンスで船員の魅力を伝える

日本の遠洋漁業と船員の魅力を伝える

5 月 8 日、神奈川県立海洋科学高等学校で「漁師の仕事!知る授業」の漁業ガイダンスが行われ、21 人の本科生が出席した。

この漁業ガイダンスは一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターが中心となり、全国各地の水産・海洋系高等学校などで開催しているもので、今回は水産庁漁政部企画課や住吉漁業株式会社などが、生徒たちに漁業と船員の魅力を伝えた。

ガイダンスでは、はじめに全国漁業就業者確保育成センターの北井楓係長から、本ガイダンスの進め方について説明があり、海員組合からは「各社からの説明を受けて漁船漁業の魅力を知っていただき、将来就職する際の職業の選択肢として参考にしていきたい」とあいさつした。

続いて映像やパンフレットを使っのガイダンスが行われ、住吉漁業(株)の担当者が会社概要と遠洋マグロはえ縄漁船や海外巻き網漁船の漁法と仕事について説明した。

遠洋マグロはえ縄漁業の説明では、乗船期間や乗組員の構成が若返ってきていることなど、最近の傾向を中心に船員の魅力を伝えたほか、海外巻き網漁業の説明では、ヘリコプターによる魚群探索や投入した漁網で魚群を囲むようすを動画で説明し、生徒たちの注目を集めた。最後に事務局より、漁業就業支援フェアの告知があり、ガイダンスを終了した。
教育目標「海洋リテラシー」

リテラシーとは、本来、読み書きの能力、識字能力であり、読み解き活用する能力のこと。今はリテラシーの前に、ある分野の名を冠して、その分野に関する知識、教養を得て、それを活用する能力をいうようになっている。海洋リテラシーとは、海洋に関する知識、教養を得て、それを活用する能力のことで「海が私たちに与える影響を理解し、私たちが海に与える影響を理解すること」を海洋リテラシーという。

「海員だより」